

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年1月28日

1. 職名・氏名 特命教授 新宮 晋

2. 学位 学位 修士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1986年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 マクロ経済学Ⅲ（2単位） 2年生以上	
② 内容・ねらい マクロ経済学の基礎理論の延長にある様々な個別理論とともに、ケインズ派以外のマクロモデルや動学モデルにも言及。マクロ経済学の応用面への足がかりを提示することをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学習時間が成果に結びつくことを学生に実感させる。そのため、テキストにしたがって経済学的な考え方を一般的なモデルで説明するとともに、單元ごとの練習問題をじゅうぶんに用意し、予習課題として講義の準備を促すとともに復習にも役立たせ、ゴールイメージを明確にすることで理解の助けになるようにした。事後に練習問題の質問会をも行った。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済学特講C・経営学特講C（経済学の倫理的基盤）（2単位） 2年生以上	
② 内容・ねらい 理論的な分析モデルとしての主流派経済学が前提にしている価値中立性に対して、他の様々な経済学説や経済学の隣接領域から寄せられる疑問や批判にどう応えるかを、主流派の方法論「方法論的個人主義」の検討を通して吟味することで、理論の有効性と限界について見通しを立てることをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 近代社会の前提である「個人」や「個人主義」を、中世から近代に至る西欧の社会構成体の変化の中に位置づけるとともに、社会思想の中で個人がどのように扱われてきたかを重ね合わせる。さらに大衆社会の到来が困難にする「個人主義」に対して、理念的・抽象的な個人主義モデルの経済学がどれほど有効なのか、というように、理念モデルの歴史として個人主義を捉える。大きな枠組みは高校までに学んだ世界史や公民諸科目の延長で理解できるよう工夫した。政治哲学からの問題提起に経済学がいかに応えるかについても言及した。今回は受講者の参加意識が高く非常に濃密な議論が可能となり、想定外の充実した講義となった。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位） 2年生	
② 内容・ねらい シラバスに基づきつつ、毎回特定の論点を提示し議論させる。受講生との対話や討論を通じて率直な意見を引き出すとともに、そうした意見の論理的な根拠を示すよう求めることで、討論が上滑りにならないよう誘導した。内容は、経済学の周辺領域と重なる部分に着目することで、社会的な課題についての考え方が多様であると同時に経済学が孤立した領域でないことを実感させることをめざした。論点の多くは、具体的な経済学と倫理学や政治哲学の接点になるもので、経済学の倫理的諸前提が社会科学の中でどういう立ち位置になるのかを理解させるよう指導した。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回の討論テーマの提示に工夫をした。経済学の倫理的基盤とされるものを理論的な観点か	

らいくつか示し、これを基盤とし、それらに対する批判、その多くは政治哲学の分野で有名なものであるが、それらをかみ砕いて紹介しながら具体的な事例から討論にはいりやすいようにすることで理解の深まりを目指した。	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 外書講読Ⅰ（2単位） 2年生（両学科）
② 内容・ねらい	主に市場重視の経済学に対する批判を含む政治哲学の英文を読む。標準的な経済学が前提にしている道徳的基盤に対する疑問が率直に提示されているものである。自分が担当する特講の授業との連携を意識しつつ、経済学を支える道徳哲学についての理解を、英語文献を読むことで深めることを狙う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	この科目では、通常英文翻訳と中身についての理解を並行して行うことが多いなか、ここ数年のやり方を踏襲し、今年度も本講義で事前にテキストの内容に関わる論点の理解を一定の時間をかけて日本語でおこなう。その際、内容に立ち入った議論に慣れることをめざし、討論の機会も設けている。特にすでに学修した経済理論についての異なる切り口からの説明を丁寧に行い、テキストの内容との連携を図った。これらによって英文の理解はかなり容易になるようで、英語の読解に入っても非常に訳文もこなれ、適切な訳語の選択など、高度な内容の英文でも一定レベルで読ませることができた。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 演習Ⅱ（4単位） 3年生
② 内容・ねらい	前期は、まず、ゼミⅠで採り上げた学内研究発表のテーマ（2つ）を改めて採り上げ、反省と復習を兼ねあわせながら発表した内容以外のどんな可能性があったかを検討して、観点により多様な結論の可能性のあることを改めて確認させた。また、例年採り上げている労働と経済に関わる論点を時事的な問題と結びつけて単発的な議論を行い、賃上げ誘導や最低賃金引き上げなどの政策が自分たちの生活とどのように関わるのかを考えさせた。後期はテキストに岩井 克人『会社はこれからどうなるのか』を選び、改めて伝統的なゼミナール形式である輪読をじっくり行った。経済学の理論モデルでは「企業」として単純化される会社の性格を「法人」という観点から捉えることで、資本主義経済の異なる可能性について理解することをねらいとした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	レジュメを適切に書くことが意外と難しいことを改めて体感させるよう、輪読のプロセスで丁寧にコメントを添えていった。テキストの重要な箇所がどこか、それらの間の論理関係をどう理解しているか問うなどを積極的におこなった。内容への深い理解がないとそれをレジュメとして表現することが難しいことを理解できることを意図したが、受講者の読書経験の浅さがそれを困難にしていることを痛感させられた。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 特別企画講座A「ケーススタディで学ぶ労働組合」（2単位） 2年生以上
② 内容・ねらい	例年行っている連合による寄付講座。採り上げるテーマは、雇用劣化（失業・非正規雇用の拡大・低賃金・労働条件の悪化）の現状と課題、従業員の権利と義務の実際、そこで果たすべき労働組合の役割などで、制度面・法制面等多面的に展開。多様な講師陣によるオムニバス講義で、キャリア教育とは異なる実社会への誘いをねらいとしている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	現場の具体的な事例から説き起こす「ケーススタディ」として講義内容を構成し直し、抽象論のレベルで重複することがないように、今回も寄付元と綿密に打ち合わせて構成を考えた。講師陣も地元の現場関係者を多くし、授業時間90分を講義60分と質疑応答の30分に分け、今年は例年と異なり、毎回の講義についての疑問と感想を出席者に書かせ、その場でその内容を述べる形で質問させることにした。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 学術ゼミ（社会学）E （2単位）
②内容・ねらい 映画やドキュメンタリーなどの短編映像を素材とし、それら「について語る」ことを通してそれらの作品を支えている、あるいはそれらの作品の背景となっている社会的文脈や人間的関係についての理解を深める。メディアへのアクセスが世代的に大きく変化する中、テレビ放送のドキュメンタリーや調査報道、世界各国の短編映画などの中から、社会的な問題を採り上げたものを中心に見せ、断片的な情報では得られないまとまりのある作品から社会の現実に対する感受性を高めることをねらいとした。また、前半鑑賞後半討論の後半部ではあえて最小限でもの発言を求め、自分をさらすことの難しさを体験させることを狙った。
③講義義・演習・実験・実習運営上の工夫 複数の学年・異なる学部の受講生が共在することを活用し、理解力の深度や発言の質にバックグラウンドの差が出ることをあえて確認させるべく、必ず一言は発言することを求めた。ある発言がその後の発言者に影響を与え、繰り返しになったり反論になったり全く違った内容になったりすることの経験は、複数人の中で語ることのメリットで、学べることも多かったはずである。自分の考えをたんなる感想にすることなく、作品の理解に即して表現することの重要性を体感するよう、ただ発言させるのではなく、突っ込みを入れることで理解の深化を促した。
(2)その他の教育活動
・経済学特講C・経営学特講C「行政のリアル」授業サポート ・原子力安全研究協会招聘授業コーディネート ・一般教育オムニバス講義「経済学」の一部分担

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文
② 著書
③ 学会報告等
④ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など 地域公共政策学会専務理事（事務局）
学会・分科会の開催運営 地域公共政策学会秋期研究大会（2025年10月開催）幹事会
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 地方公共団体等の調査受託等
③ 公益性の強い) NPO・NGO法人への参加
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
② その他
(3)その他 (個人の資格で参加している社会活動等)

6. 大学の管理・運営

(1)役職 (副学長、部局長、学科長)
(2)委員会・チーム活動
教職課程部会委員 (2025年4月～)
学部教育学習支援チーム(2023年4月～)
1年生相談担当教員
(3)学内行事への参加
入試説明会
(4)その他、自発的活動など